

いわぬまぶんかざいっうしん 岩沼文化財通信

☆市内の特徴的な文化財③



記念すべき 第50号

2026年8月12日発行
岩沼市ふるさと展示室
(市民図書館2階)
TEL: 0223-25-2302

これまでの通信
はこちらから！



火葬の歴史

時代	期間	火葬について
奈良時代	8世紀	奈良県元興寺の僧侶、道昭が700年に火葬されたことが日本初の火葬であるとされています。この頃はまだ一般の人々には火葬の文化は広がっていませんでした。
平安時代	9世紀～12世紀	平安時代も京都などでは僧侶を中心に火葬は行われ、貴族(身分の高い人)や豪族(地域の有力な支配者)の間では火葬が広がりました。鎌倉・室町時代には、武士や一般の人々にも火葬が少しずつ広まりました。
鎌倉時代	12世紀～14世紀	
室町時代	14世紀～16世紀	
江戸時代	17世紀～19世紀	江戸時代の始めには幕府の考えもあり火葬が一般的になりましたが、地方ごとの伝統的な考えの違いもあり江戸、京都、大阪などの人口の多い地域で中心に行われました。
明治時代	1868年～1912年	政府によって火葬が一時禁止されましたが、大都市などでは埋葬できる土地が限られていることなどから再び認められました。1940年代には火葬の割合が全国的に約4割を超えていましたが、第2次大戦で火葬場が大打撃を受け、やや割合が下がりました。しかし1950年代から、火葬場が新しく作られたことで火葬の数も増え、現在のように火葬が埋葬方法の中心となりました。
大正時代	1912年～1926年	
昭和時代	1926年～1989年	
平成時代	1989年～2019年	
令和時代	2019年～	

今回は市の西部にある「熊野遺跡」と「中ノ原遺跡」を紹介します。熊野遺跡は、中世(鎌倉時代)の集落の跡で、出土遺物や遺構から在地(その場所を生活拠点とする)の有力者が生活していた可能性があります。中ノ原遺跡は、同じく中世のお墓の跡で、写真①のように2基の板碑(石の板に仏様を表す文字を書いて死者を供養したもの)と、その下から写真②のような火葬(遺体を焼いて供養する埋葬の方法)された人骨を中に納めた壺も見つかっています。

2つの遺跡の距離や出土遺物から、熊野遺跡で生活していた人(支配者階級)が中ノ原遺跡に埋葬された可能性が高いと考えられます。



① 2基の板碑



写真②の壺は
ふるさと展示室で
見られます！

② 人骨を納めた壺

ポイント・当時(鎌倉時代)まだ珍しかった火葬された人骨が見つかったこと。
・出土遺物や遺構、遺跡の距離などから、生活していた人と埋葬された可能性のある場所がセットで見つかった、分かりやすく珍しい事例であること。